

平成29年度「学力・学習状況」検証事業状況報告書（概要）

1 研究主題 児童の実態を把握し、授業を改善するPDCAサイクルの実践

2 研究の概要

(1) 学力向上のための改善サイクル

本年度は、児童の実態と課題を把握し、学力向上のための手立てを検討することに重点を置いた。

(2) 学力向上のための取組

ア 基礎的・基本的な知識・技能習得のための取組

・朝の短時間学習（読書、算数、国語、外国語活動、ビジョントレーニング）

・ちばっ子チャレンジ 100、学びの突破口ガイドの活用

・読書の習慣化（読書時間、読み聞かせ、読書月間、読書賞）

・詩や名文の暗唱と確認テスト、評価カード

・漢字や計算、社会科の小テスト（名称：明神カップ）

・学習の約束づくり（学習の進め方、姿勢、鉛筆の持ち方、学習用具）と到達度の確認

イ 授業改善に向けた取組

・全国学力・学習状況調査の問題と児童の解答を分析

・「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用

・相互授業参観と外部講師の指導

・少人数指導、習熟度別少人数指導、ティームティーチング

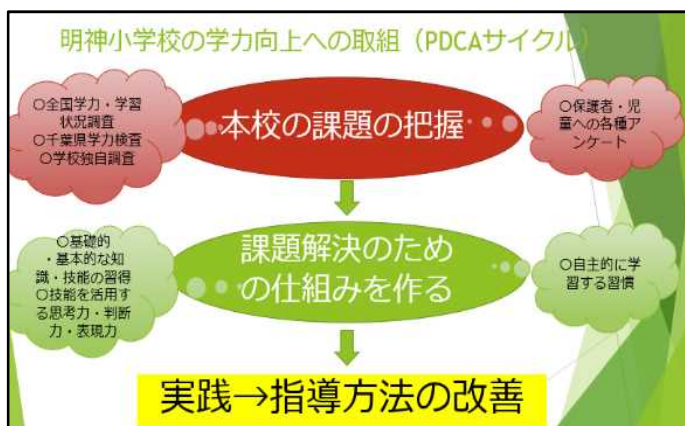
・問題解決型の授業の充実

・学年で活用できる教材（ワークシート等）や掲示物（教科書の拡大や算数のきまり）の作成

ウ 家庭学習の向上に向けた取組

・家庭学習の手引きを配布

・家庭学習の実態調査



国語 A	算数 A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙の後付けを書くところが全国平均を上回った。 →手紙を書く学習活動は、国語科との関連を図りながら各教科等で意図的に実践することが重要である。本校は総合的な学習の時間に「片品の友達に手紙を書く」という学習をしたので、定着率が高かったと考えられる。</li> <li>・俳句の良さを感じ取る設問の正答率が低い。 →朝の暗唱タイムで、国語の美しい響きを感じ取りながら、文語の調子に親しむことができるように指導する。 →気に入った俳句、紹介したい俳句を選び、俳句カードにまとめる。選んだ俳句については、グループで交流して自分の紹介する内容を明確にする。 →運動会など、日常の出来事を俳句で表現して、伝え合う。</li> <li>・「ことわざ」の正答率が平均まであと一歩である。 →「ことわざ」について日記やスピーチで使わせ、ことわざを身近に感じさせる。</li> <li>・古文や漢字の正答率が低い。 →古文や漢字は文章の解釈に重点を置くのではなく、詩の暗唱で多くの文章に触れていき、興味をもてるようにする。</li> <li>・文章の中での漢字の用法ができなかった。 →漢字の練習をするだけでなく、読書や書く学習の中でも漢字の学習を取り入れる。 →同音異義語についても辞書や掲示物で日常的に触れられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗数が整数の場合は正答率が高く小数になると低くなる。 →計算の反復練習とともに、テープ図と関連付けておくことが大切である。整数、小数及び分数の計算の学習においては、問題を解決する過程で、計算の意味と計算の仕方を関連付けて、計算の能力を養う。</li> <li>→公倍数や公約数は、中学校における分数を含む文字式の計算や連立二元一次方程式を加減法で解く際にも活用されるため、用語を含め確実に理解できるようにする。また、練習問題を繰り返し解くことで、素早く計算できるようにする。</li> <li>→長さ・かさ・重さ・面積などの単位の導入については、直接比較、間接比較、任意単位による測定、普遍単位による測定について、それぞれのよさを理解し、新たに学習する量の比較や測定に活用することができるようにする。</li> </ul>
国語 B	算数 B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す、聞く」の問題では不正解の児童は条件不足の場合が多い。記述の条件として、条件に合った正しい言葉遣いで答えなければならぬもので、書き言葉に合った適切な言葉遣いができていない解答が多かった。 →場に応じた適切な言葉遣いで話すためには、声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体と常体との使い分けなど、その場に応じた最も適切な表現の仕方について指導する。</li> <li>・書く問題は、本文から大変な二つの理由を読み取ることができず自分の考えのまま文章を構成してしまった解答が目立った。 →何度も推敲して文章全体の構成の効果を考えて書いたり、文を引用する等、わかりやすく伝えるための工夫を考えたりする授業を行う。</li> <li>・「読む」の問題は、無答や条件無視が多い。 →叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめさせる。先ず場面の展開に沿って、登場人物の言動や心情の変化を表現している叙述を見つけさせる。さらに、高学年では、象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容など、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に注目して読むように意識付ける。また色や情景などの描写から受けるイメージを交流するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりを一般化する問題に無回答が多い。 →算数の学習では、児童自らが数量の関係を一般化して表現できるようにする。</li> <li>・平均値を求める問題では、7メートル以上の測定結果だから、7メートルを基準にして、それを超えた分で平均を求める場合が例示されているので、7メートル20センチでもできる。その時の式とやり方を示し答えを求めるという問題の意図が読み取れなかった。 →測定値の平均を求める際は、平均がおおよそどのくらいになるのかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したりする活動を取り入れる。正しく計算するだけでなく、どうやったら簡単に求められるかをテストの点数や、幅跳びの結果等、日常的に考えていく場面を設定する。</li> <li>・数直線やグラフ、表を読み取れない。 →総合的な学習の時間で新聞を作ったり、各教科で調べたものをグラフにしたりする。</li> <li>・設問5-2は全国平均を上回っているが、最も正答率の低い問題で、学年で7人しか正答していない。(そのうち模範解答は1人である。)割合を扱った問題に抵抗を感じている。 →身近な例題を取り入れ、親しみをもって問題を解決できるようにする。また、算数の学習が日常に生かせることを普段から感じさせ、算数の必要感をもたせる。</li> </ul>

< 全国学力・学習状況調査の分析と対策 >